



橋 戸

令和2年9月1日
学校だより 第6号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木 俊哉

“言葉”の意味 ～ “言葉”の重み

校長 青木 俊哉

コロナという言葉を目にしない日はありません。テレビのニュース番組やワイドショー、新聞の報道だけでなく、雑誌や書籍のタイトル、また私たちの日常会話でも頻りに聞かれます。コロナ禍、コロナ対応・対策、コロナ問題、コロナ予算、ウィズコロナ、ポストコロナ、アフターコロナ…、たくさんの言葉が渦巻いています。正しくは「**新型コロナウイルス感染症**」と呼ぶべきところですが、現実には略称での広がりが見られます。本来コロナという言葉は、太陽のコロナを表す天文・気象用語であり、コロナ・エキストラという輸入ビールの銘柄であったり、暖房器具の商品名だったり、かつてはコロナ・マークⅡと呼ばれる車が流通したりしていました。企業・団体名や商品名は言うに及ばず、人の名前にもおそらくいると思います。この中には、コロナという名称をつけていることで、売り上げが下がったり、いわゆる風評被害的な影響があったりすることもあるでしょう。言葉を使う側に悪意はなくても、無意識のうちに、差別や誹謗・中傷につながりかねないと考えられます。

学校でも、「**コロナいじめ**」が生じないよう、子供たちが正しく理解し、互いの人権・人格を尊重する気持ちを育む指導・支援が必要です。先日発せられた文部科学省からの緊急メッセージを始め、学者や著名人、芸能人やスポーツ選手など、様々な人からの“**言葉**”が発信されています。私たち学校の教職員、橋戸の子供たちを支えてくださる地域・保護者の皆様が一体となり、“**言葉のもつ意味や重み**”を大事にしながら、引き続きの対応にあたっていくことを願っています。